

原野谷学園新たな学園づくり地域意見交換会 資料

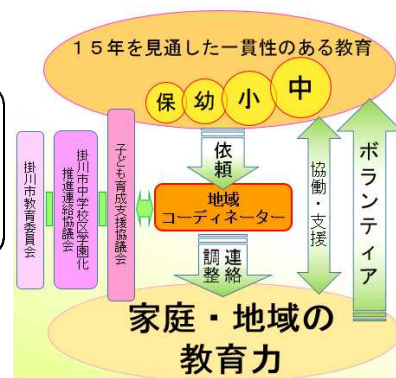
平成30年8月24日
掛川市教育委員会教育政策室

1 中学校区学園化構想

- 各中学校区の園、学校が連携して子どもの教育にあたる
- 園、学校支援ボランティアの支援による教育活動

学校・家庭・地域が連携して子どもを育む教育を推進

- ・他校種との交流を深める
- ・教職員の連携を深める
- ・学校、家庭、地域の連携



2 社会の変化

(1) 急速に進む技術革新

- 身近な「もの」の変化
- プログラミング教育、授業の変化 等

(2) グローバル化の進展

- 国や地域を越えたつながり
- 外国語科、外国語活動

(3) 人口減少社会、少子・高齢会の進展

- 少子化

【良い点】

- ・個々への指導支援の充実（行き届いた教育）
- ・教師と子ども、子ども同士の間関係が密になる
- ・異学年のつながりが増える

【問題点】

- ・人間関係の固定化
 - 自然の競い合いや切磋琢磨の機会の減少
 - 活力やたくましさの低下
- ・単学級…クラス替え→年度初めのリセット
- ・様々な人や考えを知ることが難しくなる→社会性の育成
- 原野谷学園の児童生徒数の推移
 - ・全ての学校の子どもの数が減っている
 - ・小中学校共に減少率は47～61%（平成元年～平成30年）

3 小中一貫教育の推進

(1) 小中連携教育

小・中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す教育

(2) 小中一貫教育

小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的に行う教育

(3) 小中一貫教育の良さ

- 学習面
 - ・学習規律、生活規律の定着、学習意欲の向上
- 生徒指導面
 - ・進学に不安を抱える児童の減少、中1ギャップの緩和
- 教職員
 - ・教職員間の研修体制の充実

4 小中一貫教育を推進するための学校施設等について

(1) 学校施設形態

- 施設一体型…同一校内に小中学校全学年がある
組織・運営共に、一体的に一貫教育を行う
- 施設隣接型…隣接する小中学校で、教育目標、教育課程に一貫性を持たせる
学校行事の合同実施等、一体感のある教育活動を行う
- 施設分離型…離れた場所にある小中学校で、教育目標、教育課程に一貫性を持たせる
小中学校が連携しながら教育活動を実施

(2) 校舎について

- ・ 原野谷学園の校舎の老朽化
→ 一体型の学校で進めるならば
→ 分離型の学校で進めるならば

5 原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会

(1) 地域検討委員会での協議内容

別紙参照

(2) 一体校の校舎等について

- 施設一体型のイメージを共有



例：メディアセンター



例：多目的な教室のスペース



例：多目的ホール



例：地域の方との交流スペース

校舎について

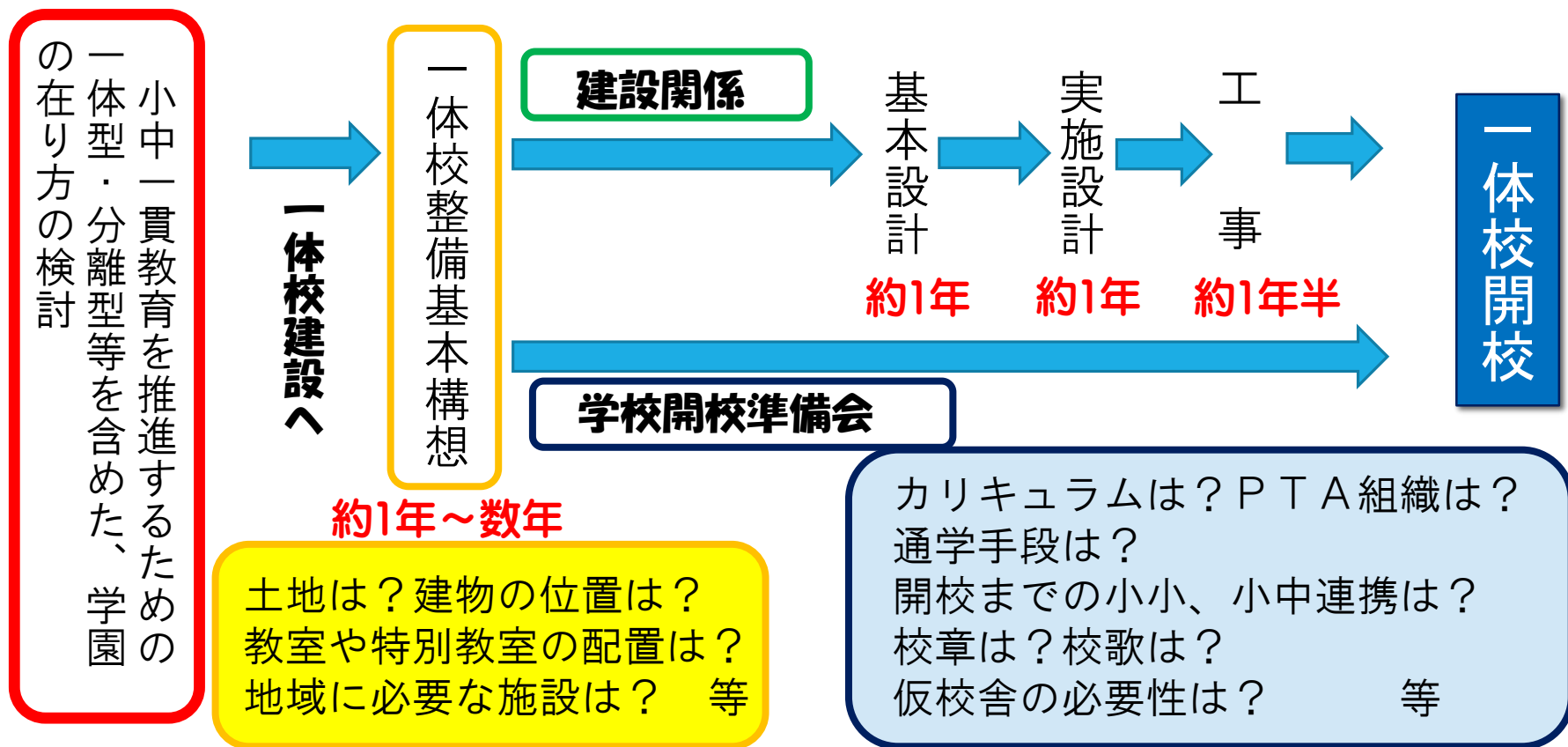
●原野谷学園の校舎の現状

平成30年5月1日現在

学校名	施設概要						
	施設名	延床面積(m ²)	建築年・月	経過年数(年)	5年後(年)	10年後(年)	備考
原谷小学校	校舎(東棟)	2125	S47.3.1	46	51	56	校舎計2,956m ² 屋内運動場 698m ²
	校舎(西棟:特別教室)	802	H5.3.1	25	30	35	
	屋内運動場	698	S57.3.1	36	41	46	
原田小学校	校舎	1681	S56.3.1	37	42	47	校舎計1,708m ² 屋内運動場 699m ²
	校舎(生活科スペース)	27	H10.10.1	18	23	28	
	屋内運動場	699	S57.3.1	36	41	46	
原野谷中学校	校舎(南棟西)	917	S36.3.1	57	62	67	校舎計3,174m ² 屋内運動場 1,308m ²
	校舎(南棟東)	1308	S36.9.1	56	61	66	
	校舎(北棟)	861	S63.3.1	30	35	40	
	屋内運動場	1308	H23.2.1	7	12	17	

●一体型の学校を建設するならば・・・

複合化・多機能化を視野に入れた校舎の構想・設計（例）



●分離型の学校を維持するならば・・・

小中一貫教育を推進するための
一体型・分離型等を含めた、学園
の在り方の検討



分離型の学校
(現状維持)

必要に応じて

- ・校舎の補修
- ・長寿命化もしくは建て替え

市内の古い校舎から、校舎の長寿命化もしくは建て替えについて、今後検討していく

課題

- 小中一貫教育の効果への期待
- 学校施設への投資の難しさ
(人口減少に伴う財政上の課題等)
- 児童生徒数の減少に伴う小学校同士や中学校同士の統廃合

原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会

これまでの検討内容

第1回 地域検討委員会 (H29. 12. 11)

- (1) 地域検討委員会の目的
- (2) 掛川市が目指す小中一貫教育について



- ① 学園内での児童・生徒数の減少が深刻になりつつある。
- ② 原野谷学園で試行的に取り組んでいる小中一貫教育の取組の効果。
- ③ 原野谷地区という大きな視点で考える。
- ④ 中学校の校舎が老朽化してきているが建て替えにあたっては、静岡県内のモデルになるような学校づくりをしていく。

原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会

第2回 地域検討委員会 (H30. 1. 29)

- (1) 第1回地域意見交換会における意見等について
- (2) 原野谷学園における小中一貫教育研究の状況について

- ① 施設一体型を建設する場合の道筋や年数、手順
- ② 現在あんりに在籍している子どもの保護者への説明
- ③ 原野谷学園で取り組んでいる小中一貫教育に大きな成果
 - ➡ 沼津にある静浦小中一貫学校を視察して、中1ギャップの緩和等、小中一貫学校の成果が職員間で共有されその良さが認められていること
 - ➡ 専科の教員が小学生に対しても指導することにより、その学習効果が非常に大きいこと 等
- ④ 小中一貫という新しい学校が地域づくりにつながるような一体型の施設形態の在り方

原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会

第3回 地域検討委員会 (H30. 3. 14)

- (1) 原野谷学園の現状及び小中一貫教育を推進するための学校施設について
- (2) 学園内の学校施設の在り方について

- ① **原田地区と原谷地区**の温度差があるので、**運命共同体**として考えていく
- ② 原野谷中学校の校舎は限界になる前に建て替えが必要
- ③ 小中一貫教育及び施設に対して**地域住民の意識や認知度を高める**必要性
- ④ **施設**面として、先進校で取り入れられている施設、特別教室、パソコン室、図書室、「あんり」の通園に活かされるような施設、あるいは、プールやデイサービス等の**新しい提案**の実現
 - ➡ ナイター設備等、若い人が魅力を感じるような施設が必要
 - ➡ 若い人に向けた、遊具や図書館、商用施設の併設等、新しいタイプの学校も検討する必要があるということ。
 - ➡ 施設の中でも**地域の人々と交流するスペース**は非常に大事
- ⑤ 用地の確保や区画整理について、**総合的かつ現実的に**進めていく必要性

原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会

第4回 地域検討委員会 (グループワーク) (H30.5.8)

- (1) 原野谷学園の施設形態についてのメリットとデメリット
- (2) 多機能型、複合型施設の在り方や要望について

施設タイプ別メリット・デメリット

	メリット	デメリット
施設 一体型	<ol style="list-style-type: none">① 小中一貫教育を推進② 児童生徒の交流の広がり③ 交流にかかる移動時間の軽減④ 新しい教科等への対応⑤ 中1ギャップの緩和⑥ 教育の質の向上⑦ 地域の関わり⑧ 建設費用・維持管理費の効率化	<ol style="list-style-type: none">① 6年生のリーダーシップを発揮する場の減少② 上級生の下級生への影響③ 発達段階に応じた施設設備の工夫④ 施設一体型校舎等を建てる場所⑤ 学区の広がりによる登下校等の負担⑥ 教育カリキュラムやPTAの組織等の再編制⑦ 中学進学への期待感⑧ 地域の学校への思い
施設 分離型	<ol style="list-style-type: none">① 学校の歴史の維持② 校舎や通学等変わらない環境③ 中学への進学(新しい環境)④ 人間関係の密接さ(少人数学級の場合)⑤ 子どもの変化への気付き(少人数学級の場合)⑥ きめ細かい教育(少人数学級の場合)	<ol style="list-style-type: none">① 児童生徒数の先細り(複式学級等)② 教育活動の限定③ 人間関係の固定化④ 建設費用・維持管理費の増大⑤ 交流活動に対する時間や移動手段の非効率さ⑥ 教員配置の困難さ

原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会

第5回 地域検討委員会 (H30. 6. 29)

(1) 原野谷学園における学校施設の方向性について

- ① 財政的には厳しい中ではあるが、補助金等を活用して、十分に一体校を建設する可能性はある。
- ② 近隣の地区を加えたいという意見はあったが、この検討委員会としては原野谷地区の方向性をまず固める。
- ③ 9年間を見据えた子ども達の未来を考えると、施設一体型の新しい学校づくりを目指す。
- ④ 施設としては新しい学習指導要領の趣旨が実現できるような、今後30年を見通した将来につながる施設、掛川一、静岡県一になり得るものであって欲しい。
→ ICTやオープンスペース等（施設のイメージを持てるように）
- ⑤ 保護者や地区住民への周知活動の工夫が必要である。